

熊切拓 (takukuma@t3.rim.or.jp)

## 1. アラビア語チュニス方言の概略

アラビア語チュニス方言（以下チュニス方言）は、アフロ・アジア語族のセム語派に含まれるアラビア語の変種のひとつであり、北アフリカのチュニジア共和国の首都、チュニスを中心に話者が分布している。音韻的特徴としては、他のセム系言語と同じく、強調音を有することが挙げられ、これを本研究では咽頭化音を表わすIPAの補助記号 /ʔ/ で示す。借用語にのみ現れるものを除いた子音音素は以下の30種である（IPAに準ずる）。/b, m, f, θ, ð, ðʕ, t, tʕ, d, dʕ, n, s, sʕ, z, r, rʕ, l, lʕ, ʃ, ʒ, k, g, x, ɣ, q, h, ʕ, h, w, j/。母音は /i, a, u/ 及びその長母音 /i:, a:, u:/ の6種である。

文法的特徴についてまとめると、この言語は男性（M）・女性（F）の2つの名詞クラスを持ち、また単数・複数（SG/PL）の区別も形態的になされる。動詞は、単複・人称（1/2/3）によって活用し、3人称単数形にのみ男女の区別がある。動詞の活用には完了形（PERF）・未完了形（IMPF）・命令形（肯定のみ）の3系列がある。以下に、上に記した以外で、本発表で用いる略号を記す。《》：《語・定型句・構文の意味》、「」：「文の意味」、[]：句・文・構文の構造、-：形態素境界、定：定冠詞。

なお、本発表は、2001年から2017年までの間に筆者が2人のチュニス方言話者を対象として行った語彙的調査・文法的調査に基づいている。資料に関しては第3節で述べる。

## 2. 問題の所在

アラビア語および現代アラビア語諸方言の多くにおいては、動詞（V）と主語（S）の語順についてSV型とVS型の2つの型が報告されている。チュニス方言においても同様であり、これを次の(1)、(2)に示す（日本語訳末尾の数字は後述する引用資料におけるページ数を示す）。

- (1) si:-t-ta:ʒir      l-akhal      qa:l-l-u:  
敬称-定-商人      定-黒い      言った-〜に-彼  
[ S : si:-t-ta:ʒir l-akhal ]      [ V : qa:l-l-u: ]  
「黒い商人殿は彼に言った [115]」

- (2) w-rkib                      it-ta:ʒir l-akhal  
そして-乗った              定-商人 定-黒い  
[ V : w-rkib ]              [ S : it-ta:ʒir l-akhal ]  
「そして、黒い商人殿は乗った（すなわち馬などに乗って出発した） [116]」

この2つの型については、その違いを叙述の型の違い、すなわち出来事叙述（event-oriented）のVSに対して属性叙述（entity-oriented）のSV（Holes 1995: 208-209）、あるいは前景叙述（foreground discourse）のVSに対して背景叙述（background discourse）のSV（Dahlgren 2009:

728) とみなす見解が提出されている。その一方, SV語順はまた, アラビア語においては主語が主題 (T) となったもの, すなわちとTVと解釈することもできるが, この解釈そのものの妥当性, および他の主題化構文との関連については十分に分析されているとは言い難い。例えばDahlgren 2009はSVをTVとみなしつつも, この主語が主題化されたTVを, 目的語などの他の要素が主題化されたTVとの関連においてではなく, もっぱらVSとの対立において捉えている。そこで, 本発表ではチュニス方言のSとVとの語順について小規模なコーパスを対象に調査を行い, SV型の大まかな傾向を調べ, さらにその特徴的な構文を検討し, このSV型についてどのような解釈が可能であるかを探ってみたい。

### 3. チュニス方言における語順の型

この節ではこの言語のSとVとの語順について行った小規模なコーパス調査をまとめる。

対象としたコーパスは約4200語ほどのもので, チュニス方言による4巻本の物語集の第1巻 (Al-ʕArwi:, ʕAbd-al-ʕazi:z [1989] *hika:ja:t al-ʕArwi:*. 2nd ed. Vol. I. Tunis: Al-Da:r Al-Tu:nisi:ja li-l-Nafr.) 所載の2つの物語テキスト ("it-ta:zir l-akhal" 「黒い商人」 [113-127], および "rʕabb-i ysʕaxxirʕ" 「ラッビー・イサッハル」 [209-217]。ページ数は表題ページと注釈を除いたテキストそのもののみ) からなる。

この物語集は作者 ʕAbd-al-ʕazi:z Al-ʕArwi:がラジオでチュニス方言で語った物語を作者の死後, 集めたものであり, 成立については不明 (現在Youtubeなどで入手できる肉声資料とは若干異なるので, おそらくラジオの音声から再録したというより, 放送原稿などをもとにしているように考えられる) であるが, いずれにせよ, そもそもが読まれるものとして意図されていないものである。また文語としての伝統がほとんどないチュニス方言には, 標準的な句読法というものが存在しないため, このテキストに付された句読点も一貫性を欠き, 今回のような「文」を単位とする調査には不向きである。つまり, 統語的に何を文とするかの判定が難しいのであるが, 今回は, それほど厳密に考えず, 動詞, 名詞句, 前置詞句, 分詞などが単独で, 文を作る主要部として機能しているとみなすことができれば, 一語でも文として数えた。ついで, 談話の型による影響 (Dahlgren 2009: 727) を排除するため, 会話ではないいわゆる「地の文」に現れる文のみに限定し, さらに関係詞, モダリティ辞など語順に影響を与えうる要素が前置されている動詞文も除いた (ただしこれは少数である)。なお, 本発表では動詞未完形と完了形による文のみを動詞文とみなし, 能動分詞や受動分詞が文主要部となったものは名詞文として扱ったため, これも除外した。

他のアラビア語諸変種と同じく, チュニス方言はいわゆる「プロドロップ」な言語であり, 定動詞などにおいて主格が示されている限りは, 主語は独立して現れる必要はない。したがって, 動詞と主語の語順を調べる場合, SVとVSのみならず, 単独のVも語順の1つとして考慮に入れるべきであると考えられる。そこで, 上記の「地の文」の動詞文をSV型, VS型の2種にV型を加えた3つの型に分類し, その割合を調べた。その結果, この2つの物語テキストに含まれる文の総数839のうち, 会話以外の「地の文」に含まれる動詞文は430であり, 3つの型のそれぞれの数はSV型が30

例 (7%) , VS型が39例 (9%) , V型が361例 (84%) となった。すなわち, この言語においては, SV型, VS型, V型の3つの型のうち, 大多数を占めるのが主語のないV型であることがわかった。

上述の通り, どのように文を区切るかは難しい問題であり, 解釈によってはこの割合も多少は変わりうる。だが, そうであっても, V型がもっとも多いという傾向は変わらないものと考えられる。このV型を無標とするならば, SV型にせよVS型にせよ, 主語が現れる型は, V型では表すことのできない何らかの表現性を有した有標の構文であると考えることができよう。

#### 4. SV型の特徴と対比的構文

次に, 本発表の主題であるSV型について検討する。SV型が構文としてどのような意味機能を持つかについての総合的な分析は今後の課題であり, ここではこの構文において特徴的ないくつかの例を示すに留める。まず, (2) のように主語と目的語・前置詞補語が同一であったり, 2つとも独立した名詞句である場合 (今回のコーパスの30例のうち2例) や, (3) のように kull 《すべて》の後に主語が続く場合 (30例のうち1例) はSV型になることが多いようだ。なお, 動詞の活用系列についていえば, (2) では完了形, (3) では未完了形となっており, SV型にはどちらも現れうる。

- (2) ir-ru:h xaržit mi-r-ru:h  
定-魂 出るPERF ~から-定-魂

「その魂は (同じ) 魂から出た (すなわち, 相思相愛の仲) [113]」

- (3) w-l-ma:l kull hadd yqaddr-u: w-yfaðð'm-u:  
そして-定-財産 すべて 者 尊敬するIMPF-それを そして-讃えるIMPF-それを  
w-yba33l-u: hatta: mi-l-mlu:k w-s-sla:fi:n  
そして-敬うIMPF-それを ~すら ~から-定-王たち そして-スルタンたち

「そして財産はといえば, あらゆる者がこれを尊敬し, 讃え, 敬うのであり, 王やスルタンの間ですらそうである [124]」 (ここでの太字については5.で説明する)

これらの例を差し引いて考えると, 27例が残るが, そのうちの1つである (1) は, 動詞の主格が何に一致するのかわかる必要から, 主語が前置されているようである。つまり, (1) は, 2人の男性の登場人物で間で行われる会話の初めの部分であり, SV型によって誰が最初に発言したかが明確になっている。それ以外の26例のSV型については (1) と同じものとして扱えるのかどうか今のところはっきりとしたことは言えないが, 少なくともその中に構文的にも意味的にも共通性を持った特殊なSV型のグループが存在することがわかる。それは, 2つのSVが接続詞 w- 《そして》によって連結される [SV w-S'V'] という構文であり, 構造的に2つの主語を対比させるものである。この対比的構文はチュニス方言のSV型の中で大きな割合を占めているようであり, 残りのSV型27例には, この構文に含まれるとみなせるSVが10例 (2つのSVで1組なので構文としては5例) 含まれる。この構文の例を, 上記のコーパス以外からのものも加えて以下にあげる (対比されている主語を太字で示す)。

- (4) **hi:ya**  $\zeta$ aq<sup>l</sup>itt-u:                      **w-hu:wa**    ma:- $\zeta$ qal-ha:-j  
彼女    認識するPERF-彼を            そして-彼    否定-認識するPERF-彼女を-否定  
「彼女は彼だとわかったが、彼は（男装しているので）彼女だとわからなかった [120]」
- (5) **ayya:**    **wxayy-na:**            ws<sup>u</sup>l                      l-ha:k-il-bla:d            **w-si:-t-ta:zir**                      l-akhal  
さて    兄弟-我らの            到着するPERF            ~に-かの-定-国            そして-敬称-定-商人            定-黒い  
**tlaqqa:-h**  
出迎えるPERF-彼を  
「さて、我らが兄弟（すなわち登場人物）がこの国に到着すると、（異国の商人を食い物にしている）黒い商人殿が彼を出迎えた [114]」
- (6) **hu:wa**    qa:l                      ya:-fakka:ya            **w-hi:ya**                      qa:lit                      ma:-sbaq  
彼            言うPERF                      ~よ-告訴人PL                      そして-彼女                      言うPERF                      否定-先行するPERF  
**min-ni:**    hadd  
~より-私    誰も  
「彼が『告訴人たちよ（前に出でよ）』と告げると、（訴え出ようと朝早くからやってきていた）彼女は『誰も私より先に来ていない』と言った [123]」
- (7) **hu:wa**    bhiz                       $\zeta$ li:-ha:                      **w-s<sup>u</sup>-s<sup>u</sup>:yi:r**                      qa:l                      wa: $\zeta$   
彼            襲いかかるPERF                      ~に-彼女                      そして-定-こども                      言うPERF                      オギヤア  
「（悪魔の犬に変身している）彼が（妻である）彼女に向かって飛びかかったまさにその時、（妻が産み落としたばかりの）赤ん坊が「オギヤア」と泣いた（その瞬間、彼にかけられていた魔法が解け、妻は助かる） [064]」

構造的にはいずれも主語が対比されているが、意味的に見てみると、単なる対比ばかりではなく、2つの主体の行為に、同時性（例えば(4)）もしくは直接的な継起性があることが表示されている。この直接的な継起性をもっともわかりやすいのが(7)であり、ここでは赤ん坊の泣き声によって、その母はまさに危機一髪の状態を脱するのである。同様に(5)(6)も文脈からすると「我らが主人公が到着するや否や黒い商人殿が出迎えた」「彼が告げるや否や彼女が言った」という訳を与えることもできる。なお、チュニス方言に近いTakroûna方言を扱ったMarçais et Guïgaでもこの用法が記述されているが、事態の同時性よりも、「~のいっぽう~」あるいは「~に反して~」といった対立性に焦点が当てられている。

これらの例は、2つのSVからなるが、この構文は、それ以上のSVを含むこともあるようだ。ただし、その場合は直接的な継起性というよりも、同時に起きた複数の事態が対比されていくものとなる。次の例では最初の3つの未完了形によって、この構文が形成されていると一応はみなせるが、(4)から(7)までの例と異なりSがいずれも不定となっているため、別の構文に属す可能性もある。

- (8) **w-kwa:nin**                      tizhir                      **w-qubqa:b**                      yt<sup>u</sup>ar<sup>u</sup>fiq                      fi:-da:r  
そして-かまどPL                      輝くIMPF                      そして-木のサンダル                      パンと鳴るIMPF                      ~の中-家  
**w-t<sup>u</sup>fla**    tyanni:                      w-l-a $\zeta$ zu:za                      hatta:    hi:ya    tfakkrit                      yna:ya:t

そして-娘 歌うIMPF.3SGF そして-年配の女 ~さえ 彼女 思い出すPERF.3SGF 歌PL

s<sup>h</sup>uyr-ha:  
若さ-彼女の

「(大金を手にした貧しい母娘が豪華な食事の支度にかかりきりになるさまを描いて) かまどは輝き, 木のサンダルは家中でコンコン鳴り響き, 娘は歌い, それで母はといえば彼女すら若い頃の歌を思い出すありさま [162]」

## 5. 対比的構文と主題化

前述のごとく, この構文は [SV w-S'V'] という構造を持つが, この構造自体に着目してさらに調べると, 主語どうしばかりではなく, 主題化された目的語と主語, あるいは主題化された前置詞補語と主語を対比させた同様の構文も, やはり似たような同時性もしくは時間的近接性を表していることがわかった。

(9) では前半のSVにおいて動詞の目的語である il-ba:b 「その門」が主題化されて文頭に出され, 主語である3人称複数の独立人称辞 hu:ma 《彼ら, 彼女たち》と対比されている。いっぽう (10) では逆に後半のSVにおける前置詞の補語 wxayy-na: 「我らが兄弟」が主題化されて, 前半のSVの t<sup>h</sup>-t<sup>h</sup>urh l-u:l 「最初の勝負」と対比されている。

(9) **il-ba:b** ma:-ka:nu yhillu:-h illa: baʃd-sa:ʃti:n wlla: 0la0a  
定-門 否定-(過去表示) 開けるIMPF.3PL-それを ~以外 後-2時間 ~か 3

w-hu:ma yʃarʃdu:  
そして-彼ら ひどく苦勞するIMPF.3PL

「門は2~3時間かかって彼女たちがようやくそれを開けたものの, 彼女たちはひどい苦勞をしました [120]」

(10) **it<sup>h</sup>-t<sup>h</sup>urh l-u:l** ma:-wfa:-ʃ w-wxayy-na: xða:  
定-勝負定-最初の 否定-終わるPERF.3SGM-否定 そして-兄弟我らの 取るPERF.3SGM

fi:-h ir-rabb ma: ʃta:  
~において-彼 定-主 関係詞 与えるPERF.3SGM

「最初の(チェスの)勝負が終わらないうちに, 我らが兄弟(すなわち登場人物)はといえば, (密かに盛られた睡眠薬によって) 主が自ら与えたものを彼において取り上げられた(《死んだ, もしくは気を失った》ことを意味する慣用的表現) [122]」

ここでチュニス方言における主題化について簡単にまとめると, 文中のある要素が主題化されるには, 文頭に現れるという位置的な条件のほか, 文中のその要素があるべき場所にそれに対応する人称接辞が現れるという再述性条件の2つの統語的条件が満たされる必要がある。例えば, (3) では, 動詞の目的語である l-ma:l 《財産》が主題化されているが, この語は, 3人称単数男性の対格接辞として動詞の後で再述されている。そして (9) では il-ba:b 「その門」は3人称単数男性の対格接辞として動詞の後で繰り返され, (10) では wxayy-na: が前置詞に付された3人称単数男性の属格接辞として再び現れている(対比されている主題およびこれを再述する人称辞は太字で示

した)。

そこで、この主題化という観点からSVという語順を捉えてみると、Sに後続する動詞は常に人称の点でSと一致しているため、上記の2条件を満たしているみなすことができ、統語的にはこのSを主題として解釈することに矛盾はない。このようにこの構文のSVのSを主題とみなせば、(4)から(8)の「主語」が対比された構文も、(9)と(10)の主題を含む対比的構文も、いずれも主題化によって2つの主題を構造的に対比させ、それらの主題を含む事態の同時性や時間的近接性を表す構文として次のように一括することができる。

(11) 主題化による事態の同時性や時間的近接性を表す対比的構文：[TV w-T'V']

この構文において対比されるのは多くは主題化された主語であるにしても、目的語や前置詞補語などの、統語的機能が異なるものも、主題という同じ役割で構文を形成するというのも、この言語の主題化の一特徴であると考えられる。

## 6. 結論と課題

上記のように対比的構文におけるSV型のSを主題として解釈すると、このSVとはTVであり、実際には「主題が前置されたV型」としてV型に還元できるということになる。

今回の調査でSV型とされ、(2)と(3)のタイプを除いた27例の中には、(9)と(10)のような主語だけではない対比的構文も3例含まれるが、これは最初に述べた対比的構文の10例の中には含メズにいた。したがって、対比的構文の「SV型」の例は13例あることになり、27例のうち全部で13例、ほぼ半分がこの対比的構文だと認定できることになる。

この統計そのものは小規模であり、あくまでも目安にしかならないにしても、チュニス方言においてSV型として現れるものの半数近くが、V型であるということになる。

今回の発表では、動詞文に限ったため扱わなかったが、この対比的構文には2つの文のうち、片方が名詞文であるような例も存在する。したがって、こうした例を含めて、この対比的構文の全体像を描く必要がある。また、残りのSV型もやはりTVとしてV型に還元できるのかどうかという問題も含め、この対比的構文を含むさまざまな主題化構文の分析を通じて、この言語における主題の意味機能を総合的に明らかにしていきたいと考えている。

## 参考文献

- Dahlgren, Sven-Olof (2009) "Word Order." *Encyclopedia of Arabic Language and Linguistics, Vol. IV*. ed. Kees Versteegh et al. 725-736. Leiden/Boston: Brill.  
Holes, Clive (1995) *Modern Arabic, Structures, functions and Varieties*. London/New York: Longman.  
Marçais, William et Guïga, Abderrahmân (1958-1961) *Textes arabes de Takroûna. II. Glossaire*. Paris: Bibliothèque de L'École des Langues Orientales Vivantes.